

持続的利用が可能な「みどり」の再生を目指して

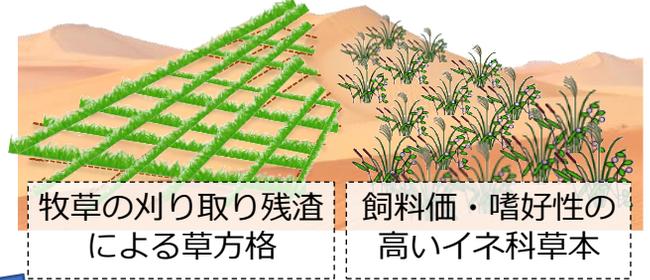
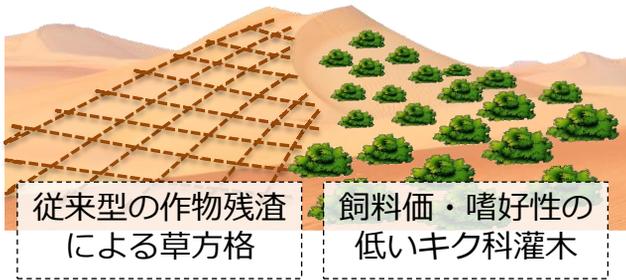
侵食抑制を重視した
「従来型」環境修復



多様な生態系サービス再生が
達成される環境修復

調整サービス：+++
供給サービス：---

調整サービス：++
供給サービス：++

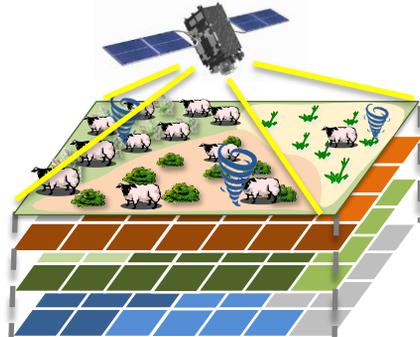


従来型の作物残渣
による草方格

飼料価・嗜好性の
低いキク科灌木

牧草の刈り取り残渣
による草方格

飼料価・嗜好性の
高いイネ科草本



土地ポテンシャルの評価



自然環境調査



緑化・修復技術の開発

全陸地の4割を占め、かつ全人口の3分の1の人々が暮らす乾燥地において、砂漠化を防止しつつ持続的な農業・畜産活動を維持していくためには、緑化による荒廃防止とともに、生態系サービスの安定的な提供が可能となるような、生態系機能の再生と、それらの持続的管理が不可欠です。

現在、モンゴルやエチオピアなどで、土地の劣化状態を改善するための土地ポテンシャルの評価、砂漠化土地の緑化技術の開発や持続可能な放牧地管理技術の開発を通じて、「どの場所に、どのような技術の組み合わせをどの程度重点的に適用すれば最大の効果と持続性が得られるか」についての処方箋づくりを行っています。